

タマシギ鳴き声調査 2024 中間報告



タマシギの鳴き声調査

昨年に続き、国内で繁殖するシギチドリのモニタリングとして、タマシギの繁殖期の鳴き声調査を試行していただきました。

今年も、中間報告の時点で13名に参加していただき、15地点の調査データを得ました。1次メッシュ（80×80km）にすると9ブロック、2次メッシュ（10×10km）で11ブロックの情報となりました。そのうち9地点、1次メッシュにすると6ブロックで繁殖期に鳴き声が記録されました。

タマシギ鳴き声調査の実施状況

2023年と2024年の調査では、約20名の方から報告をいただき、82地点で調査データが得られました。調査地域は、1次メッシュで13ブロックとなりました（Fig.1.）。繁殖期の鳴き声を確認した地点は、24地点となり、1次メッシュ10ブロックで記録されました。記録率は約30%（24/82地点）となりました。個人的には、関東の荒川中流域で過去に記録のあった場所や生息していそうな環境を選んでみたものの、容易には記録されませんでした。

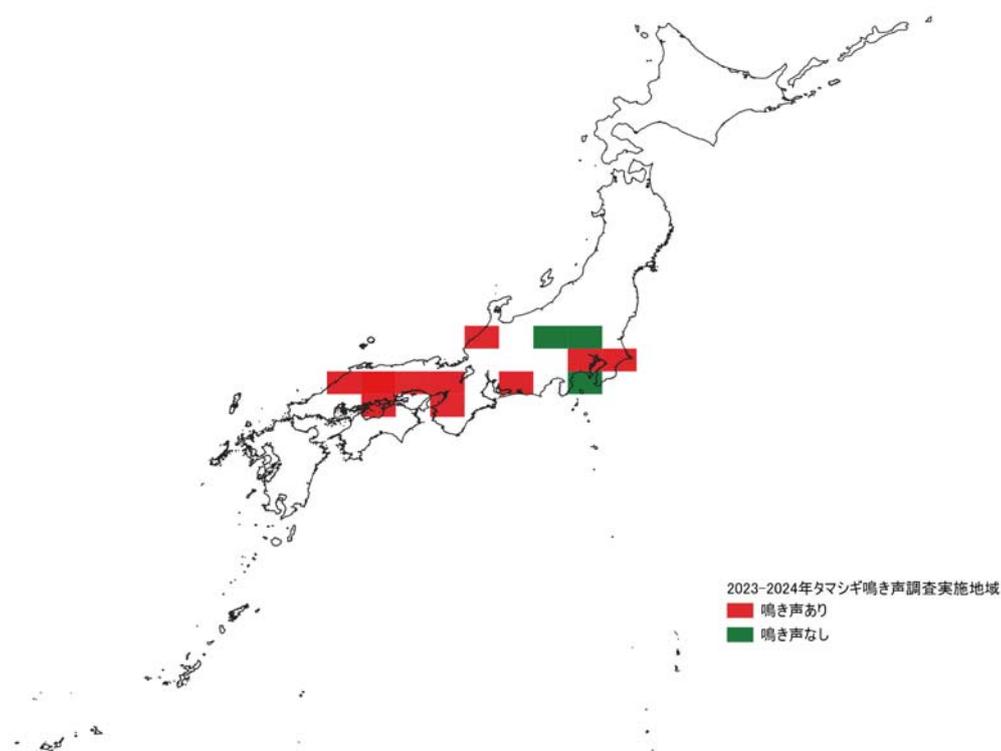


Fig.1. タマシギ鳴き声調査の参加地域と記録された地域（2023-2024年）

観察地点から見たタマシギの分布

これまでの観察報告や情報に加えて、バードリサーチのフィールドノート、コーネル大の ebird の 2010 年から 2024 年 8 月末までのデータと、全国繁殖分布調査の 2016 年から 2021 年までのデータを用いて、タマシギの生息分布を 1 次メッシュで図示しました。

繁殖期の分布地域

繁殖期を 4 月から 9 月と設定し、観察地点を 1 次メッシュで図示したところ (Fig.2.)、34 ブロックにおいてタマシギが確認されていました。北海道、東北地域では観察記録がなく関東から九州北部、沖縄・八重山諸島の一部に記録がありました。1990 年代の調査では新潟県や宮城県の記録もあることから、繁殖期の分布がやや南に下がっているのかもしれませんが。詳細な観察地点は、海岸や大きな河川、湖沼の沿岸に近い平野部に観察されることが多く、標高が低い場所で確認される傾向がありました。

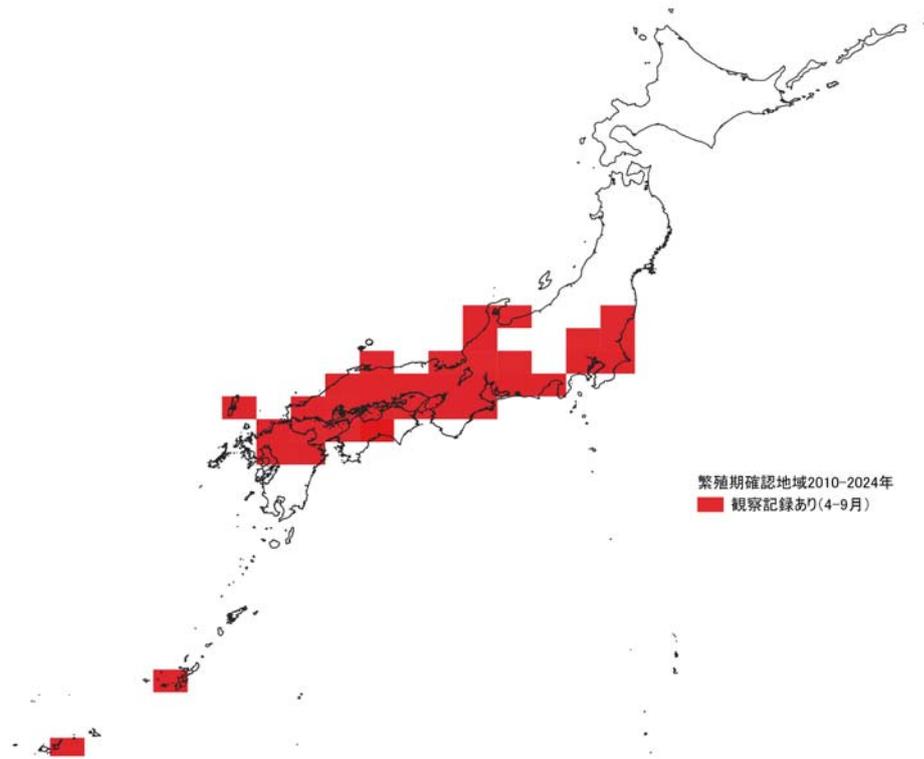


Fig.2. 繁殖期（4～9月）にタマシギが記録された地域（2010-2024年）

非繁殖期の分布地域

非繁殖期を10月から翌年3月と設定し、1次メッシュで図示したところ（Fig.3.）、24ブロックにおいてタマシギが確認されていました。繁殖期よりやや南に分布し、関東平野部から九州・沖縄地域で記録がありました。本州の日本海側の記録がなく、降雪などの影響が考えられます。

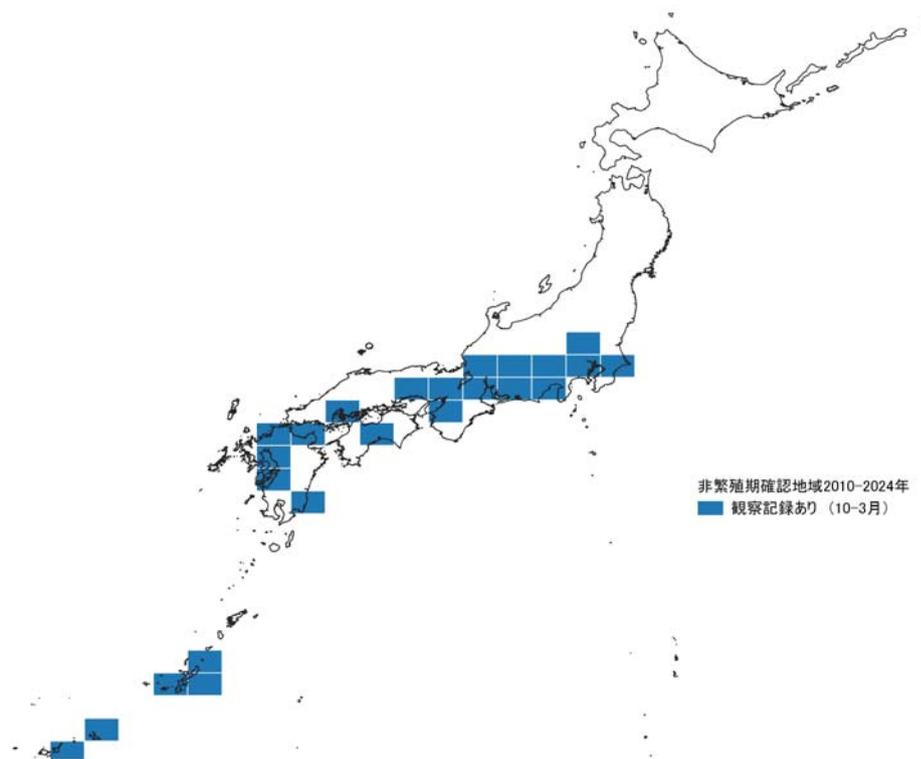


Fig.3. 非繁殖期（10～3月）にタマシギが記録された地域（2010-2024年）

今年度、タマシギ鳴き声調査をされた方、観察された方、過去の記録をお持ちの方など、情報をお寄せいただければ幸いです。また、北海道、東北地域、九州南部地域のタマシギ事情についても、観察記録などありましたら教えてください。

いまのところ調査参加地域が、関東以西の本州地域となっているため、分布のある九州・沖縄や四国地域、また東北南部にも広げてモニタリングの体制がとれればと考えています。

よろしくお願いいたします。

NPO 法人バードリサーチ
守屋
2024/9/6